

土石流による犠牲

台風などによる局地的な豪雨のため、土石流が発生して犠牲者が出ることがあります。土石流は山腹や川底の土砂と水が一体となって溪流や斜面を流下する現象で、山津波ともいいます。徳島県那賀町と香川県観音寺市の例をご紹介します。

■昭和 51 年台風 17 号による土石流（徳島県那賀町）

昭和 51 年（1976）の台風 17 号では、台風の動きが遅かったことも要因となり、木頭村（現那賀町）の北川で 9 月 8 日から 13 日までの降雨量が 2,500 ミリを超える驚異的な降雨を記録しました。村内では那賀川の増水により床上浸水が発生したり、崩壊により国道 195 号が不通となるなど災害が多発しました。台風が去った直後の 13 日午後 1 時半頃には、突如西ノ谷山が崩壊し、膨大な土石流により平地区の 3 分の 2 が土砂の海と化しました。この土石流により、平地区では建設作業員宿舎 1 棟が流されるなどして、6 人が生き埋めとなり、懸命の捜索活動により 4 日後までに全員の遺体が収容されました。昭和 52 年 9 月に犠牲者の一周忌が執り行われ、慰霊碑が建立されました。〈木頭村誌編纂委員会編「木頭村誌続編」2006 年及び平地区の慰霊碑の碑文など〉



平地区の慰霊碑



(地理院地図に加筆)

■平成 16 年台風 15 号による土石流（香川県観音寺市）

平成 16 年（2004）8 月 17 日、台風 15 号の接近により局地的豪雨に見舞われ、大野原町（現観音寺市）五郷地区では午後 2 時～3 時の時間雨量が 54 ミリ、降り始めから 18 日午後 6 時までの雨量が 281 ミリを記録しました。この豪雨で、17 日夕方、五郷有木落合地区で、氾濫した前田川の濁流が落合自治会館に流れ込み、自主避難していた女性 2 人が犠牲となりました。県西讃土木事務所によると、前田川の氾濫は、川の東側 2 箇所です砂崩れが発生し、2,000 m³以上の土石流で生じた大量の土砂や倒木が川に流入したことで、短時間に急激に増水したためと推定されるということです。平成 20 年 3 月に落合地区災害復旧砂防事業竣工碑が建立されました。〈新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005 年及び香川県土木部河川砂防課編「平成 16 年土砂災害復興の記録」2009 年）など〉



落合地区の砂防堰堤



落合地区災害復旧砂防事業竣工碑



(地理院地図に加筆)